

ふりがな 氏 名	いしだ かずと 石田 和人	職 名	教授
取得学位	博士(医学)	学会での受賞歴	第43回日本理学療法学会大会優秀賞(平成21年5月)
主な担当科目	リハビリテーション概論、機能障害病態論、老年期障害理学療法学、基礎ゼミナール		
所属学会	日本理学療法士協会、日本基礎理学療法学会(理事:令和2年6月～現在に至る)、日本神経理学療法学会、NPO 法人愛知県理学療法学会(理事長:平成31年4月～現在に至る)、日本神経科学学会、北米神経科学学会、日本生理学会、脳機能とリハビリテーション研究会、日本マイオセラピー協会、コメディカル機能形態学会		

◆ 教育業績

事 項	実 施 年月(日)	概 要
アクティブラーニングを用いた授業	平成31年4月～現在に至る	学生主導による演習、iPad を用いた取りまとめと発表などを取り入れ、アクティブラーニングを推進した「神経理学療法学」(豊橋創造大学)。
ウェブ環境を活用した遠隔授業の実施	令和2年4月～現在に至る	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ウェブ環境を活用した遠隔授業の方法を確立し、教材資料の提示および課題設定などを工夫し実践した「神経理学療法学」「発達障害理学療法学」「地域健康支援学」(豊橋創造大学)。

◆ 研究業績

区 分	著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称	単・共	発行・発表年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)	備 考
著 書	リハビリテーション神経科学 <ISBN 978-4-7583-1937-9>	共	平成31年3月30日	マジカルビュー社	監修: 玉木彰 編集: 鈴木俊明、大西秀明 著者: 石田和人 全355ページ中、Part 1 基礎編 2. 神経可塑性(p.18-35)を執筆
論 文	Coordination of plantar flexor muscles during bipedal and unipedal stances in young and elderly adults.	共	平成30年5月	Exp Brain Res. 236	Tatsunori Watanabe, Kotaro Saito, <u>Kazuto Ishida</u> , Shigeo Tanabe, Ippei Nojima. p.1229-1239
	Effect of auditory stimulus on executive function and execution time during cognitively demanding stepping task in patients with Parkinson's disease.	共	平成30年6月	Neurosci Lett. 674	Tatsunori Watanabe, Kotaro Saito, <u>Kazuto Ishida</u> , Shigeo Tanabe, Mitsuya Horiba, Shogo Itamoto, Yoshino Ueki, Ikuo Wada, Ippei Nojima. p.101-105

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年 月 (日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
論 文	Age-Related Declines in the Ability to Modulate Common Input to Bilateral and Unilateral Plantar Flexors During Forward Postural Lean.	共	平成 30 年 12 月	Front Hum Neurosci.	Tatsunori Watanabe, Kotaro Saito, <u>Kazuto Ishida</u> , Shigeo Tanabe and Ippei Nojima. doi: 10.3389/fnhum.2018.00254
	Behavioral effect of short- and long-term exercise on motor functional recovery after intracerebral hemorrhage in rats.	共	平成 31 年 1 月	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases 27	Keigo Tamakoshi, <u>Kazuto Ishida</u> , Keishi Hayao, Hideaki Takahashi, Hiroyuki Tamaki. p.3630-3635
	中枢神経障害に関する基礎的研究の動向と臨床への応用.	単	令和 3 年 10 月	理学療法学 46 巻 1 号	理学療法トピックス シリーズ「基礎研究の動向と臨床への応用」連載 第4回 p. 59-64
	Repetitive training of contralateral limb through reconsolidation strengthens motor skills.	共	令和 3 年 10 月	Neurosci Lett	Tomoya Gyoda, <u>Kazuto Ishida</u> , Tatsunori Watanabe, Ippei Nojima. doi: 10.1016/j.neulet.2021.136306.
	A 型ボツリヌス治療後の斜面板を使用した立位訓練と機能的電気刺激が歩行能力に与える影響.	共	令和 4 年 12 月	愛知県理学療法学会誌 34 巻 2 号	生田旭洋, 石黒正樹, 岡元信弥, 伊藤寛之, 若泉賢也, 辻朋浩, <u>石田和人</u> , 佐藤千香子. p. 70-75
学会発表	Anxiety/depressive-like behaviors by mild stress can be improved by treadmill exercise in rats without the change of HPA axis. (ラットの軽度水泳ストレスによる不安・抑うつ様行動はトレッドミル運動により改善する).	共	平成 30 年 3 月 30 日	第 95 回日本生理学会大会(高松) 大会企画シンポジウム 「脳機能改善を目指す運動療法の分子メカニズム」 ”The understanding of molecular mechanisms underlying exercise therapy for the future of neurorehabilitation”.	<u>Kazuto Ishida</u> , Kohei Koike, Akiko Maruyama, Yuki Uenishi, Satomu Wakayama, Yoshitaka Sugiyama
	Effect of very early exercise on motor functional recovery and brain damage after hemorrhage in rats. (脳出血後の超早期における運動介入が機能回復および脳損傷に与える影響).	共	平成 30 年 3 月 30 日	第 95 回日本生理学会大会(高松)	Keigo Tamakoshi, <u>Kazuto Ishida</u> , Keishi Hayao, Hideaki Takahashi, Hiroyuki Tamaki

区分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発行・ 発表 年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
学会発表	Early rehabilitation inhibits inflammation and aids motor function recovery after intracerebral hemorrhage in rats.	共	平成30年7月27日	第41回日本神経科学大会(神戸)	Keigo Tamakoshi, <u>Kazuto Ishida</u> , Keishi Hayao, Hideaki Takahashi, Hiroyuki Tamaki
	脳卒中リハビリテーションの開始時期の違いが運動機能障害および大脳皮質感覚運動野に及ぼす影響.	共	平成30年8月19日	第25回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会(千葉)	玉越敬悟、 <u>石田和人</u> 、高橋英明、早尾啓志、田巻弘之
	脳梗塞後および脳出血後の運動介入が運動機能改善および組織傷害に与える効果の比較検証.	共	平成30年12月15日	第23回日本基礎理学療法学会(京都)	玉越敬悟、 <u>石田和人</u> 、高橋英明、早尾啓志、田巻弘之
	リハビリ室の環境でバランス能力を評価してもよいのか、床面の状況、履物による影響.	共	平成30年10月27日	第34回東海北陸理学療法学術大会(津)	中根大樹、田中望、大谷陽介、永田峻、 <u>石田和人</u>
	脳卒中リハビリテーションに向けた基礎研究.	単	平成31年3月10日	豊橋リハビリテーションミニ連絡会(豊橋)	<u>石田和人</u>
	膝関節伸展位での踵接地を行うことで効果的に Gait Solution 継手付き短下肢装具を使用した脳卒中患者の一例.	共	平成31年3月17日	第28回愛知県理学療法学術大会(名古屋)	日置知那、渡邊大志、谷垣真哉、 <u>石田和人</u>
	中枢神経障害のリハビリテーションを動物実験により探求する.	単	令和1年5月8日	豊橋リハビリテーション連絡会(豊橋)	<u>石田和人</u>
	こころとからだの神経科学健康論.	単	令和2年7月19日	日本マイオセラピー協会令和2年研修会(東京)	<u>石田和人</u>
	足底への荷重感覚訓練を工夫したことにより起立動作が改善した一症例.	共	令和2年8月8日	第29回愛知県理学療法学術大会(名古屋)	阿部真也、小島雄也、菅沼淳一、 <u>石田和人</u>
	理学療法の視点からみた心の健康管理について.	単	令和2年10月21日	第432回東三河産学官交流サロン(豊橋)	<u>石田和人</u>
	基礎研究から見た脳科学の進歩と理学療法.	単	令和4年10月	第27回日本基礎理学療法学会・教育講演4(大阪)	<u>石田和人</u>
	生活期脳卒中患者に対してウェルウォーク WW-1000 を集中的に使用した歩行練習が有効であった2症例.	共	令和4年10月	第20回日本神経理学療法学会学術大会(大阪)	谷垣真哉、 <u>石田和人</u>

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
学会発表	Trunk Solution とウォークエイドの併用による片麻痺歩行への効果－大殿筋筋活動に着目した一症例での検討－.	共	令和4年10月	第20回日本神経理学療法学会学術大会(大阪)	西ヶ谷嘉一, 渡邊大志, 岩田哲典, <u>石田和人</u>
	臨床や地域の現場にこそ本当がみえる－技術と科学のクオリアを求めて－.	単	令和4年10月	第38回東海北陸理学療法学術大会・大会長基調講演(名古屋)	<u>石田和人</u>
	脊柱と肩甲骨に着目した結帯動作のバイオメカニクス.	共	令和4年10月	第38回東海北陸理学療法学術大会(名古屋)	小川祐太, 彦坂潤, 富田秀仁, 西村映理子, 曾我仁, <u>石田和人</u>
その他 (報告書)	高齢者の健康体操支援用簡易MoBIログシステムの開発(29-23)在宅での動的バランス評価の妥当性に関する検討.	単	平成31年3月	長寿医療研究開発費平成30年度 分担研究報告3	<u>石田和人</u>